

授業科目 公衆衛生学

【担当教員名】 遠藤 和男		対象学年	1	対象学科	栄養
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
＜概要＞ 管理栄養士の国家試験科目としての「社会・環境と健康」は、従来の「健康管理概論」と「公衆衛生学Ⅰ」とから成っており、1年生前期の「健康管理概論」に続いて学習する。なお、臨地実習に必要な指標及び方法論については2年生の「(保健)統計学」及び「統計情報処理」で学習する。なお、「公衆衛生学」は総論、「公衆栄養学」は管理栄養士用の各論と捉えてもよい。 ＜一般目標：G I O＞ 公衆栄養学及び同実習の基礎ともなる疫学的概念と方法論を修得するため、人生の各段階における宿主要因、環境要因及び疾病の予防対策について理解する。 ＜行動目標：S B O＞ 1. 公衆衛生の定義を説明できる。 2. 疾病予防の3段階について説明できる。 3. ライフステージ毎に特有な健康問題を指摘できる。 4. 主要な疾病について宿主要因と環境要因とを区別できる。 5. 種々の疾病それぞれの予防方法について実践できる。					
回数	授業計画又は学習の主題				SBO 番号
					学習方法・学習課題
1	公衆衛生の定義と歴史	公衆衛生の定義と諸外国及び日本における歴史について学ぶ。			1 講義
2	人口問題と衛生統計	日本の人口構成の変化及び人口動態統計における諸率について学ぶ。			1 講義
3	疫学概念と記述疫学	疫学概念と記述疫学的手法について学ぶ。			2 講義
4	分析疫学の指標と評価	分析疫学で用いる各指標とその評価方法について学ぶ。			2 講義と国家試験演習
5	衛生行政と国際保健	保健所と市町村の役割分担、世界保健機関と国際問題について学ぶ。			1 外来講師による講義
6	母子保健と学校保健	少子化の中でエンジェルプランの内容や学校保健の問題点を学ぶ。			3-5 講義と国家試験演習
7	成人保健Ⅰ	結核やエイズ、その他の感染症の流行要因とその予防対策を学ぶ。			3-5 講義
8	成人保健Ⅱ	脳卒中及び心臓病を中心とした関連疾患の原因と予防方法を学ぶ。			3-5 講義と国家試験演習
9	成人保健Ⅲ	がんや糖尿病、骨粗鬆症などの原因と予防方法について学ぶ。			3-5 講義
10	老人保健	これまでにいもろんな講義で触れられた老人保健について復習する。			3-5 講義と国家試験演習
11	環境保健Ⅰ	衣服、温熱、住居環境など日常の生活環境について学ぶ。			3-5 講義
12	環境保健Ⅱ	地球環境の悪化と大気汚染や悪臭その他の公害問題について学ぶ。			3-5 講義と国家試験演習
13	環境保健Ⅲ	水質汚濁や騒音・振動などの公害問題と健康被害への補償を学ぶ。			3-5 講義
14	労働衛生と産業保健	労働者に多い疾患作業管理、作業環境管理、健康管理の方法を学ぶ。			3-5 講義と国家試験演習
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書		シンプル衛生公衆衛生学2007版	久道茂、鈴木庄亮編	南江堂	2007年、¥2,400+税、毎年改訂
参考書		スタンダード公衆衛生学	眞野喜洋編、遠藤和男分担	文光堂	2002年、¥5,800+税
その他の資料		毎回レジュメを配布する。また、国家試験の過去問集はテーマ毎に集めたものを配布する。			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
・ 毎回小テストを実施し、自己採点する。 ・ 休講になる場合は、レポート課題を与える。 ・ 定期試験は過去の国家試験問題から出題する。		健康栄養学科内の関連科目と内容について調整済みである。ただし、重要な項目については重複を承知で教える可能性があり、講義でも重複であることを指摘する。			